

第3次 和田地区福祉活動計画

（日比小学校区）

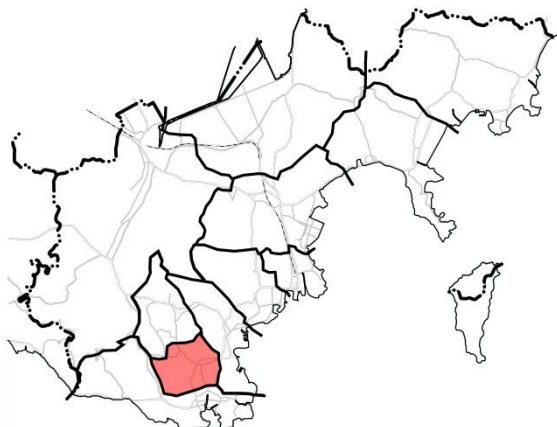


神登山からの和田地区の風景

**令和4年4月
和田地区社会福祉協議会
玉野市社会福祉協議会**

1 和田地区の地域特性

(1) 地域の概要

面積	2. 27km ²	
人口	6, 097人	
世帯数 (1世帯あたりの人数)	3, 087世帯 (1. 98人)	
高齢者数※65才以上 (75才以上の人口)	2, 497人 (1, 364人)	
年少人口 0～14才	477人	
町内会・自治会数	54ヶ所	
概要		
平野部から山裾にかけて住宅地が広がるこの地域は、宇野と渋川との中間地点であることからバスによる交通の便も良く、生涯学習を含めた教育施設が充実しており、また、各種医療機関も立地して、子供から高齢者まで幅広く生活できる住みやすい住宅環境を形成しています。 また、戦後に住宅地化された地域であるため歴史としては浅いものの、地域活動が盛んであり、特に「かつからか・デ・わだ」は伝統行事として根付いています。		

※住民基本台帳(令和3年3月31日現在)

※住民基本台帳には、御崎2丁目全域、向日比1・2丁目、深井町(日比市民センター管内)が含まれています。

(2) 地域の主要な施設

高齢者 関連	デイサービス 3ヶ所 グループホーム 1ヶ所	その他	小学校 1ヶ所(日比小学校) 中学校 1ヶ所(日比中学校) 高等学校 1ヶ所(玉野備南高等学校)
障がい者 関連			公民館 2ヶ所 (和田公民館(和田市民センター)、 和田公民館分室)
児童 関連	保育園 1ヶ所(和田保育園) 幼稚園 1ヶ所(和田幼稚園)		生涯学習センター 1ヶ所(ミネルバ) 分団消防機庫 1ヶ所(和田分団)
医療 機関	医院 3ヶ所 歯科 4ヶ所		交番 1ヶ所(玉野マリン交番)

2 和田地区の課題と福祉活動計画

(1) 地域の目指す理念(スローガン)

『みんなで支える やさしいまち』

高齢になっても障がいを抱えていても、住民一人ひとりが力を出し合い、お互いの絆を強めて、悩みごとや困りごとを抱えた住民をみんなで支えあい、和田・御崎地区で暮らす誰もが和やかに生きがいを感じながら暮らすことのできる「やさしいまち」を目指します。

(2) 地域の課題と解決に向けた取り組み

※下記の付番は次ページ取り組み項目の付番と連動しています。

課題
【近隣と付き合いが少なく住民が孤立しがち】 近隣同士の付き合いが薄れ、住民が孤立することで、生活上の課題を抱える住民が増える可能性がある。
【見守りや声掛けが不足し生活が不安】 住民のプライバシー意識の高まり、近隣同士の見守りや声掛けがしにくい環境となり、暮らしに不安を感じる住民が増えている。
【興味の持てる活動が少なく参加しづらい】 地域活動が固定化されており、活動の選択肢が限られている。現在、活動に参加されていない住民への積極的な働きかけや周知（PR）が十分でない。
【車の運転ができないと外出がしづらい】 和田地区にはそこそこお店もあり、極端に距離があることで困っている人は多くないが、地域全体が一緒に高齢化していくため、移動支援の検討が必要である。
【障がい者への理解や支援策が不十分】 障がいがある方への理解が十分でないため、住民による支援の手が有効に行き届いていない。障がいがある方も、より安心して暮らせる地域にする必要がある。
【和田地区社協が住民に浸透していない】 地区ボラセンは浸透してきているが、地区社協の活動だとは思われておらず、まだまだ地区社協自体のPRが必要である。



取り組み
①気軽に集える居場所づくり ②マップ作成による見守り体制づくり
②マップ作成による見守り体制づくり ③地区ボランティアセンターの継続的な運営
①気軽に集える居場所づくり ③地区ボランティアセンターの継続的な運営 ④移動支援サービスの検討
③地区ボランティアセンターの継続的な運営 ④移動支援サービスの検討
①気軽に集える居場所づくり ③地区ボランティアセンターの継続的な運営 ⑤福祉等に関する講習会の開催 ⑦安心して暮らすための環境整備
③地区ボランティアセンターの継続的な運営 ⑥広報誌による地区社協の周知 ⑧地区社協の組織基盤の強化

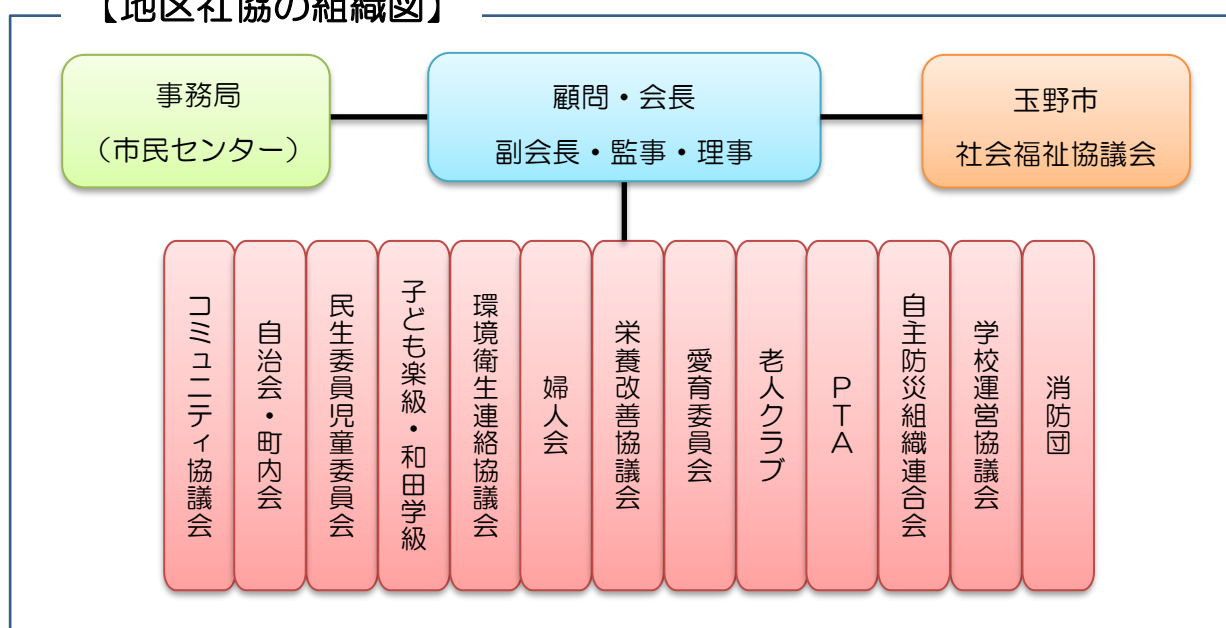
(3) 取り組みの年次計画

活動の内容	年次計画（年度）					連携する団体
	R04	R05	R06	R07	R08	
①気軽に集える居場所づくり						民生委員会 愛育委員会 自主防災連合会 自治会・町内会 コミュニティ協議会 老人クラブ 市民センター 玉野市
コロナに配慮した集える場づくりを推進します。また、子どもや親世代と交流できるイベントも企画します。	→					
②マップ作成による見守り体制づくり						
各組織で連携し、それぞれが把握する情報を地図上に落とし込み、緩やかな見守り体制の構築をします。	→					
③地区ボランティアセンターの継続的な運営						
地区ボラセン「和」は地域住民の間で浸透してきているので、今後はサポーター募集に力を入れ、継続的な運営が出来る様にしていきます。	→					
④移動支援サービスの検討						
移動支援の代替えとなる和の買い物代行等を利用してもらいつつ、今後もサービス開発の検討を継続します。	→					
⑤福祉等に関する講習会の開催						
地区だよりで広報し、福祉に関する知識を得るための講習会を企画。地域住民の福祉意識の高揚を図ります。	→					
⑥広報誌による地区社協の周知						
地区社協について、広く地域住民に認知してもらうため、継続的に地区だよりやチラシ・ポスターを活用しながら広報していきます。	→					
⑦安心して暮らすための環境整備						
月に1度、まちを点検することにより危険箇所を発見し、修理や補修することで、安心できる生活環境を整備します。	→					
⑧地区社協の組織基盤の強化						
さらに充実した取り組みを計画に沿って推進するため、新たな理事や「和」のサポーターを発掘し、組織基盤の強化を図ります。	→					

(4) 計画の推進

本計画を推進するには、多様な担い手が連携を図りながら、それぞれの活動に取り組んでいく体制づくりが必要なために、和田地区では、地区内で活動する各種団体と市民センターとで構成するネットワーク「和田地区社会福祉協議会」を設置しています。この組織が中心となり、多くの住民の参画を得ながら、また、市社会福祉協議会による活動に関する情報やアドバイスの提供、財源の補助等の支援を受けながら計画を推進します。

【地区社協の組織図】



地区ボランティアセンター「和」の活動の様子
(買い物代行)



「福祉無償運送らんらん(乙島)」視察の様子